

令和2年2月23日

第13回 新木地区「地域会議」議事録

1 開催日時 令和2年2月23日（日） 10:00～

2 開催場所 新木近隣センター 多目的ホール

3 議 事 司会進行 新木地域会議事務局長

(1) 開会挨拶 事務局長

(2) 市民活動支援課課長

(3) 意見交換おしゃべり

「地域会議の開催テーマ」

安心・安全住みよいまちづくりに向けて

「新木地区等子ども支援」の現状把握について（その2）

イ プロジェクト報告

地域活性化は子どもさんの役割が大きい

子どもの目線で、やって見せる、トライさせる

ロ 「子どもさんに対してできること」

「子どもさんからやってほしいこと」

第一グループ 議事録

第二グループ 議事録

第三グループ 議事録

第四グループ 議事録

(押し付けない・理解を分け合う・聞く耳を持つを基本に
発言いただき {見える化} を図りたいと思います)

ハ グループまとめ

(4) 市民活動支援課アンケート

新木地区地域会議 感想アンケート

(5) 閉会

4 出席者 以下の通り

南新木一丁目自治会、あらき野自治会、吾妻台自治会、下新木区自治会、松風苑自治会、南新木自治会、新木小学校PTA、湖北中学校、湖北中学校PTA、我孫子特別支援学校、湖北地区民生児童委員、湖北地区社会福祉協議会、湖北地区公民館、ふらりえ新木野、新木野高齢者見守りネットワーク、デイサービスルーチェ、新あらきのおうち、新木小父親の会、新木地区まちづくり協議会 17名

5 次回予定日 **令和2年 10月25日(日) 10:00~12:00**

議事録

(3) 意見交換

※グループ毎の意見交換の前に新木小学校PTAよりの発言

私は湖北中学校、新木小学校のPTAを7年間続け、小中学校のコーディネーターもしています。今の子供たちの現状の説明をしたいと思います。少子高齢化がものすごいスピードで進んでいます。現在の新木小学校の生徒数は「454名」です。それが2022年には「363名」、2026年には「251名」となることが予想されています。布佐地域はもっと深刻な状況です。

皆様をお願いしたいのは「子どもは地域の宝です」。

その宝を守るためには、皆さんの知識が必要です。

今の子供たちが、外で遊ぶことが少ないのには事情があり、学童、あびっこクラブ、吹奏楽部、陸上部や各種習い事が多くなか、どうやって子供たちと関わっていくか先生たちと話し合い、学校をもっとオープンにして地域と協力しあっていくことを進めています。いろいろな形で世代間交流していきたい、地域と学校とをマッチングさせていくことが私の役目と考えています。

公園では砂場がなくなり、遊びにくくなっています。地域の皆さんの知識と協力を学校側では希望しているので、これからグループ毎に話し合ってもらいたいと考えていますので、よろしく願いいたします。

(グループ①の意見交換)

下新木自治会：現在当自治会では子供が何人いるか分からないし、やろうと思ってもできない状態です。単独の自治会ではなく、広域の自治会単位で考える必要があるのでは。昔は運動会ではリレー競争があり、地域対抗リレーもあった。誰もが参加できる企画が必要ではないか。

地域会議事務局：子供たちは参加したくても、親が参加したくないのが現状。子供会もなくなって、地域で参加する行事が少ない。子供が少ないので運動会などもコンパクトになっている。

あらか野自治会：あらか野自治会では子供会がまだあり、年10万円弱の補助金を支給している。去年の夏祭りには約1000人ほどの人が集まって、子供神輿等にこんなに人がいたのかと驚くほどのたくさんの子供も参加してくれた。何か子供たちが喜ぶことをやればもっと参加してくれるのではないか。

まち協：子供会はあっても親が非協力的、逆に補助金もないからあまり押し付けなくてほしいというのが現状。「子供支援」というよりも「子供を持つ親の支援」が必要なのかも。子供は宝といいながら、地域の大人自身が子供たちに対してあまり積極的に接していない、町内ですれ違っても挨拶をしない人が多いし、「あ！危ないよ」または「こらこらそんなことしちゃだめだよ」等、大人が子供の行動にあまり関心を持って接していないように思える。大人がもっと変わる必要があるのでは。

まち協：自治会では子供会はありません。147世帯のうち、子供がいる世帯は8世帯しかない。今はもうイベントはできないのが現状。年寄りができることは、子供の見守り等で対応している。まち協のイベントも近いこともあり良く参加している。

南新木自治会：南新木は最近できた地域で子供は比較的多いが、学校群が新木小と布佐南小に分かれていることもあり、子供会は無くなりました。自治会としては、①夏祭り、②駅前の花壇づくり、③公園でのラジオ体操等、夏祭りでは1丁目自治会と共同で開催している。大人がイベントをしなければ子供は集まらない。まち協のイベントは子供たちもみな楽しみにしているので、これからも続けていくことが必要ではないか。

あらか野自治会：あらか野自治会ではイベントは当年度の役員ではなく、常設委員を設け継続して担当することができるよう、計画している。

民生委員：民生委員として高齢者の見守りは把握しているけれど、子供さんたちのことには疎い。各種のイベントには大人が積極的に参加する事が大事ななと思う。中学生になると自転車を利用することになるので、大人から中学生に対し、交通安全教育等働きかけることも必要ではないか。

まとめの意見

- ・囲碁を通じて子供たちと交流していきたいと考えているが、地域と学校が直接つながるようにできると良い。
- ・親子で参加できる場所があると良いのでは。
- ・子供食堂というのがあり当初は子供の食事を提供する場であったが、現在は母親も一緒に来て食後に話ができる交流の場となっている。
- ・今は皆スマホを持っているので、近隣センター等でスマホをいじれる場があると良いのでは。

・近隣センターを改造してもっと気楽に子供たちが集まれる場所にしたらどうか。

グループ①としてのまとめ

- ・子供からではなく大人の方からアクションをしていこう。
- ・まち協をもっと子供たちから入ってこれるようにしていこう。
- ・各自治会で子供会がなくなっている、大人たちが子供を引っ張っていこう。
- ・親が悩んでいるのかもしれない、親が会話できる場所があると良い。
- ・スマホを持っている子供を集めよう、親も一緒に来てもらおう。

(グループ②の意見交換)

1. 大人が子どもに出来ること

- ・昔遊びを今全国的に大人と子供がふれあう事を通じて、バザー・福祉まつり等で行っているが元気フェスタで活性化となっている。「コホミン」でやるので東側の参加者が少ない。小中学生が参加できる行事をしたい、昔遊びから始めている。
- ・自分が子どもの頃とは世界が違う、部活・習い事等で忙しい。我が家は共稼ぎで親が家にいない、子供会は親共々話し合いをしている。イベントの会合で交流し遊んでいる。
- ・11月から民生委員をやっている、高齢者には団塊の世代が多く、新住民が若い世代で子供がいる。地域の秋祭りは普通にやれば高齢者が多数なので変わったことをやるがそんなに種類は無い。(ダーツ大会、コマ回し他) 普段から子どもに声をかけることを大人から始める。
- ・子供が多く、登下校の際は車や変な人などに気を付けている。犬の散歩をしていて顔なじみになる。自治会として、ラジオ体操などを行っているが子どもの参加が多い。
- ・新木で22年住んでいるが住み始めて時との違いは子供が減っているのが現状になっている。地域の中で子供と関わるのが大事な事になる。
- ・中学生が何を望んでいるのか、よく分からない。
- ・福祉まつりでは小学生が60人参加し社会体験を行わせているので新木小の子ども体験させたい。
- ・虐待が新木地区でも問題になっている様だが。
- ・月に1~2回の報告があるが高齢者・身障者が多く、子どもの話は今は無い、話としては出しにくい点があるのではないか。

2. 子どもから大人にやって欲しいこと

- ・家で出来ないことを大人と一緒に出来る場所の提供が必要ではないか。
- ・遊びの広場、社会体験、昔の遊び。
- ・道路での遊び、公園の設備が不安（錆び等）、ゲームが好きだがスポーツを与えたらどうか。
- ・大人からスポーツを教える、イベントでの体験、ボランティア体験、遊び方を教えたら。
- ・平日は共稼ぎで親が教えられない、いじめ・虐待の話は難しい、新木小はないのか？
- ・湖北中は不登校が多くなっている。
- ・相談、話を望んでいるか、聞いて欲しいのか？
- ・民生児童委員の仕事を知らせる。つなぎ役としての役目（市、児童相談所、県等）1人で250世帯を担当している。児童相談所は家庭内の対立関係の問題点を明らかにする、子どもを中心に考える。

(グループ③意見交換)

- 1) 今後ますます少子化が進む時代に、小学校も1学年1学級、あるいは統廃合の可能性もある。地域への影響も考えると、小学校に活気がなくなると、地域も同じようになると考えたほうが良い。
- 2) 地域の住民同士が顔見知りになることが、安全・安心のまちづくりに結びつくので、まずは子供たちが仲良くなって、親たちの交流が始まるという流れをもっと積極的に広げていきたい。
- 3) 幼稚園時には、親たちがバス停に集まるので、交流の輪ができやすい。小学生時は、登校時に親が家の前で見送る習慣をもっと広げれば良い。自宅前を子供たちが通るので声をかけたりできる。
- 4) 子供がルールを守ることは親の指導が大きい。例えば、学校に遅刻する児童は決まっており、親の関心がない特徴がある。
- 5) 親たちのサークルをたくさん作る方法がないものか？近隣センターの活性化もできるので。
- 6) 児童と高齢者が触れ合うことは、お互いにメリットがある。児童は知識が増える、高齢者は教えたり意見を聞いてもらえる満足感が得られる。また学校の先

生も若い人が多いので、高齢者の意見は貴重だ。

7) 触れ合いの場として、小学校や中学校を利用する方法がないか？①少子化で教室が余ってくるので、教室を常設の触れ合いの場にする方法がないか（例えば昔遊び広場、囲碁将棋道場）？

8) 単発的なイベントとして、野菜作り、工作鉛筆削りなど大人・高齢者の特技を児童のために生かせないか？その特技の募集、リストアップは「近隣センター便り」を利用すれば良い。

9) 湖北中学では事前申し込みで、授業参観ができるようになったとのことで、このような情報と仲介を「まち協」でやったらどうか。

10) 高齢者施設での散歩コースで「こもれび」に弁当を持っていくが、学校や新木近隣センターにも行けるような方法がないか？

11) 「まち協」で学校と住民や、児童と高齢者（施設）をマッチングしてこないか？学校や父兄の会と情報交換をして、ニーズを探ることから始めれば少しずつ進んでいくと思う。

12) 学校のプール掃除、書道・料理・工作教室、地域授業参観など、学校や父兄とまち協がアイデアを出し合いながら進めていけるのではないか。

13) 四大イベントでは、学校の協力のおかげで、子供ボランティアが多数集まるようになって喜ばしい。さらに、近隣センターに児童たちが集まりやすい工夫ができないか（卓球、パソコン、00教室 etc）。

14) 我孫子市はますます予算が減少していくと思うので、行政に頼らないで、自分たちで工夫していくことが必要になると思う。「できることから少しずつ」の精神でいきたい。

その他出されたアイデア)

①子供たちが先生になっての高齢者向け「スマホ・楽々フォン教室」

②運動会での熱中症対策として「カキ氷屋台」

(グループ④意見交換)

■大人が子どもさんにできること（どんな関わり合いをしているか？）

- ・朝とかの声掛け、挨拶
- ・下校時のマナーなど、悪いことをしていれば生徒に声掛け。「すみません」と素直に帰ってくる。市や校長に話したりもする。
- ・子どもは大人の背中を見ている。大人は挨拶できているか、そういうところから始めると良いと思う。
- ・朝、夕に見かけるくらいだが、返事があるがなかろうが声は良くかける。学校の新聞は読むようにしている。
- ・学校の授業参観や運動会に出ている。給食の公開を前から希望しているが、そうして交流を持つことで親も含めたお互いの考えがわかると思う。
- ・子育て会議など参加。学童保育など子どもは平日外で遊ぶことがない。学校保育はサポートする人が少ないなど学校に格差があるので、関わっていくと良い。
- ・社協の関係で4学校の福祉にかかわっていた。生徒さんがボランティアに積極的に参加してくれるようになった。行政に学校との関わりを作ってもらえるのは大きい。
- ・南新木が出来て子供が増え、良い環境になりつつあると感じる。
- ・まち協では子どもボランティア定着してきた。継続が大事、やってよかった。子供たちが楽しくできるよう、これからも継続したい。
- ・子ども達に秩序を教えることも大事。小学生は挨拶があるが中学生は逃げたりする。年配の方がどうやって学校と関わるかが課題かなと思う。老人の経験や知恵で問題を解決できることもあると思う。
- ・子どもボランティアでは、リーダー格がいなくても課題。あわんとりのお囃子録音ではなかなかまとまりがつかなかった。東高校に行ったとき、みないい子。案内とかも気軽にしてくれる。
- ・我孫子内に子ども食堂はたくさんあるが、新木地区にない。まち協でやってみたらいかがか？

※子ども食堂の運営はいろいろだが、参考例として以下

大人300円、子ども100円、月1回、夕食のみ

- ・何かを始めようとしたとき課題はたくさんあってよい。そこで議論が発生し、いろいろ問題が見えてくる。

■子どもさんから大人にやってほしいこと

- ・コホミンでは夏休みの宿題の手伝いをやっている。案内状を1万枚作成し配布した。カヌーなど実体験のイベントプログラムを作り、親も子供も一番大変な読

書感想文のお手伝いとしてやっている。何かやることで親子ともども関わりを持ち、見えるものがある。

- ・学校では夏も放課後サービスを続けている学校が多い。
- ・朝の自転車通学など細道はやはり危ない。見守ってあげたい。
- ・「ふらりえ」ではちょっと寄ってほしくてポスターにその旨を書いたら、道草ということでクレームがついた。今はやっていない。
- ・子ども達は集まっても皆でゲームをし、お互いに会話がなない。
- ・不登校の子どもがいるがゲームをしている。医療の先生からゲーム脳を直せと強く言われる。
- ・大人もしている。子どもが返ってきてても、お母さんがスマホから顔を上げずにお帰り、など、子どもは親の背中を見ている。
- ・久寺家では夏休みの宿題サポートをお年寄り主体で行っている。結構集まる。
- ・子どもの頃のボランティア体験は、その子の一生に影響を与えることもある。介護ボランティアをした子が医療関係の仕事に就くなど。
- ・根戸小にてキッズニアという職業体験を行っている。かなりの参加者がある。これに参加していろいろヒントを得た。子供の自発性を尊重し伸ばしていきたい。6年生が1年生に教えるなども良いと思う。